

産業建設委員会記録

令和 7 年 4 月 30 日(水)

10 時 2 分～11 時 26 分

全 員 協 議 会 室

【委 員】川上委員長、~~田畑副委員長、~~

村木委員、大谷委員、小川委員、佐々木委員、~~牛尾委員~~

【議長・委員外議員】

【事務局】小寺書記

議題

- 1 行政視察報告書について（委員間で協議）
 - (1) 委員会の考察
- 2 取組課題について（委員間で協議）
 - (1) 進捗状況整理
 - ア 道の駅ゆうひパーク浜田の問題について
 - イ 地域小売店の問題について
 - ウ ゼロゼロ融資の問題について
 - エ 小規模農家への支援について
 - オ 建設業の問題点と課題について
- 3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 02 分 開議]

○川上委員長

ただいまから産業建設委員会を開会する。出席委員は5名で定足数に達している。

1 行政視察報告書について（委員間で協議）

(1) 委員会の考察

○川上委員長

4月22日から24日の間に実施した。まずは国会議員への意見交換、23日は甲府市で甲府城周辺地域活性化実施計画について、24日は宇都宮市で陸上養殖。国会議員との意見交換について、皆から所感は出ているが報告書はまだできていない。私が代わりに作りたいと思うがよろしいか。

（ 「異議なし」という声あり ）

できたものを見て問題があれば意見をいただきたい。

所感について、まず私から。市議会から国会議員に対して意見交換を行ったことは有意義であった。浜田の現状をつかんでもらう機会となった。

○村木委員

事前に地域の方と話す場面があり、今回こういった形で国会議員と話す機会があるという話をする中で、矢原川ダムのことを一言言ってほしいという要望があったため委員長の許可を得て発言した。

また、特に小規模農家、兼業農家のことをアピールしたかった。牛尾委員から話を振っていただいたため、PRができたと思う。

○川上委員長

小規模農家への支援を打ち出すことができたという認識で良いか。

○村木委員

項目の中のRMOには直接触れなかったが、兼業農家や小規模農家に対する思いについては意見交換ができた。

○大谷委員

とても有意義であった。直接思いを伝えることができたのは良かった。その中で踏み込んだ言及もあり、文字だけでは分からないニュアンスも感じることもできた。

○小川委員

事前にまとめてある項目順に所感をまとめた。中央の情勢に直接触れる機会は少ないので貴重だと感じた。水産の関係は、温暖化もあり魚種も変わって厳しさがあるという認識をされているということで、陸上養殖の必要性についても認識を持っておられ、今後のメニューも含めて考えてほしいということと、地元においては柔軟に検討することをお願いしたいという要望もいただいたと認識している。浜田港については水深の問題、ふ頭の延伸が重要なところだと思う。私としては、ゲートウェイロー

ド線の検討をお願いしたことも付け加えている。また、九州から山陰に向けての道路を山陰まで通すことが重要だという認識が示され、それに向けて国土強靱化予算も使われるのではと感じている。農業については、米の価格の問題に対し農林水産省を中心とした認識に問題があるのではないかというニュアンスの発言もあったと思っている。現場が非常に大変な状況であることを認識いただいております、国として米に対する生産体制が重要だということも意見交換を通じて感じた。

○川上委員長

項目ごとに認識いただいていることが分かった。続いて、佐々木委員。

○佐々木委員

特に印象に残った点を抜粋した。高見事務所では国土交通省の事業計画などの実態が把握できた。特に、国土強靱化計画、水道管の緊急点検などがあり、有意義な意見交換であった。青木事務所では浜田国際貿易港の港湾整備について、三浦事務所では米の高騰対策など、現状の問題に対して有意義な意見交換ができた。

○川上委員長

皆から意見をいただいた。これをある程度絞り込んでおきたい。

水産業の振興については、認識をいただいているという程度か。それ以外にあるか。浜田漁港については、国土強靱化計画も含めながら浜田港の重要性を認識されており、護岸の延伸も進行中であると答えをいただいた。農業振興については、RMO、兼業農家、小規模農家の現状についても理解をいただいているということだろう。

こういう形でまとめてよろしいか。

(「はい」という声あり)

では、続いて甲府市の視察。

私は、実施計画を立ててから実施に移るまでの間、かなりの展開があり、中堅職員の方々が自分たちの考えも述べながら縦断的、横断的にされていたことが大きいと感じた。

○村木委員

私は報告書を担当した。3月定例会議で議案にもあった類似案件ということで丁寧にまとめたつもりである。いただいた資料も貼り付けている。

自分としては計画があつての実現であったことが印象的である。亀屋座については急きょDBO方式に変えて、今いる職員の中でやり遂げた。そのためにサウンディング、地元企業や市民、県民の意見を取り入れてきたといったところが印象的であった。

写真はたくさん撮ったが資料に良い画像があったので、そちらをそのまま使った。皆の質疑はこれからの浜田において参考になる部分があるので、ほぼすべて取り上げてまとめた。

○川上委員長

浜田の今後についての取組に参考になる部分があったということが大きかった。

○大谷委員

甲府市は松江市より人口が少ないが、にぎやかであった印象。立地状況は真似できないが、歴史や文化に関わる施設を大事にし、総合的に基本計画から積み上げておられる点は素晴らしい。また、状況に応じてやり方を変える柔軟さを持つ職員がおられた点も素晴らしいと感じた。現地視察をした亀屋座は、限られたスペースの中にコンパクトにできていると思ったが、使う立場になった場合にあれで良いのかという心配を感じたため、最後の詰めの段階でさらに改善できるような提言ができる職員がいたり、時間があつたりすればさらに良いものができただろうとも感じた。令和 11 年に向けて堀を戻して当時のお城を再現するような復元工事も今後あると伺い、まち全体に歴史・文化を継承し、にぎわいにつなげている思想が参考になると感じた。

○川上委員長

歴史・文化を継承して計画し、なおかつ地域をつくっていくことが大事。

○小川委員

甲府駅南口周辺地域修景計画が大元の計画で、県と市が共同で策定したもので、双方の組織が引っ張ってきたという特徴があると感じた。平成 24 年から始まった息の長い計画で、じっくり練った上で整備を始めたということが重要だと感じた。コンセプトとして歴史の部分もだが、リニア新駅が開業するという未来を見据えた中での、過去の歴史と今と未来をつなぐまちづくりを強調されていて、それを意識した周遊・回遊できるまちを目指すというコンセプトがしっかりしていた。つながりを大事にしているという点も参考にする必要があると思った。設計・施工・運営まで一括して行う DBO 方式は、あらかじめ運営者が決まっており、運営者の立場からどういう施設を造りたいか、今までは行政が造ったものを民間が使うという形が多かったが、使う側の意見を取り入れるということにも整備のポイントがあると思った。クラウドファンディングで 6 億円を超える寄附が集まったこともすごいと思った。民間事業者の体力も浜田に比べてあると感じたため単純には比較できないとは思いますが、3 月定例会議で修正があつた中で、説明責任や市民の合意を形成しながら進めていくという意味では、こういう調査方法や委託方法は大変参考になるのではないかと思った。

○川上委員長

県との協力や DBO 方式など参考になる部分が多かった。長い時間をかけて合意形成をされたところが大事である。

○佐々木委員

亀屋座の施設内容や規模は参考になった。小規模ではあつたが、園児から大人まで、様々な場面で利用が想定できるよう工夫されていた。多目的室も複数あり、いろいろな形態で利用できるようになっており、特に若手起業家のチャレンジショップも印象的な取組であつた。広場もステージがあつたり芝生があつたり、ゆったり過ごせる工夫もあり、浜田の施設整備にも参考になると感じた。花小路は甲府城からの大きな流れがあつてのことで、当市には難しいとも感じた。

○川上委員長

地域の特性に合わせた計画と実行ということだと思う。若者事業者へのチャレン

ジの機会を与えていることも大事だと捉えた。

浜田市も同じような形でこれから浜田駅を中心とした地域開発を計画しているので、ぜひとも中堅職員の方が甲府に行かれて、こういうことを勉強することが必要ではないかとも考えている。

市民・県民の意見を幅広く取り入れ、柔軟な取組がなされており、歴史・文化の継承も含めてこのような計画をされた。計画そのものがしっかり練り上げられて合意形成された上での実行であったという形で報告にまとめることでよろしいか。

(「はい」という声あり)

最後に宇都宮市。事業が始まったばかりなので、中身がはっきり見えてこない部分もあったが、浜田市も考えている事業なのでもう少し今後の動きを追跡調査する必要があるのではと感じた。このように新たなことに取り組むことに関して、中堅職員の方が力を入れておられたので、浜田市も取り入れる必要があると思った。

○村木委員

発想の転換というところで勉強になった。地元の素材を生かしたまちづくりということで、地元にあるものを生かすということが大切だと思った。ストロベリーサーモンは水道料金高騰への対策かと思ったがそうではなく、水質の良さをアピールすることだと言われたことに驚いた。公営企業ということで今後の展開も見していきたい。

○大谷委員

モンドセレクションに応募されたというところだが、これはそれぞれが応募して認証を受けるようなシステムであった。自分から申請をして認めてもらう流れだと想像できる。認証を受けることによって価値が上がるため、同じようなものが浜田にあれば、認証に対する助成制度などがあればより良いのではと参考にした。職員の方々がPRということで、本来の事業以上のことをして盛り上げようとしておられる点は大変感心した。こういう姿勢が地域の発展に寄与していると感じた。

宇都宮の養殖がうまくいっている点として、地下水が豊富にある条件下でのことであり、実際にこれを民間で考えると設備面で必要なものが出てくると思うので、市で成功したからすぐということではなく、経過を見ていかないと判断しにくい。

○小川委員

宇都宮のおいしい水道水を広く知ってもらうことを目的に何ができるかという中の一つのアイデアとして始まった。ヤシオマスの養殖は他県でも結構されているが、ここでは栃木の名産であるいちごを混ぜ込ませた餌を与えているという点で差別化を図られた部分は特徴的である。地元のテレビでも取り上げられており、安全でおいしい水をPRするという目的は十分達成されていると感じた。将来的には民間事業者に引き継ぎたいという意向も示されていたため、今後も頑張ってもらいたいと感じた。

○佐々木委員

新たな事業として有効とは感じたが、民間事業者との関係、安定した供給、販路先の開拓など課題も多く示されていた。皆と同じように今後も見えていく必要があると感じた。

○川上委員長

今後を見据えて当市も状況を確認する必要があるのではないかと。また、地元の産品をいかに活用していくかということが大事だと。そして、モンドセレクションに応募してまでPRしたいという思いがこの中にある。このような形でまとめてよろしいか。

(「はい」という声あり)

書記、このような形で良いか。

○小寺書記

所感は良いが、特に市に対して伝えたい、反映させたいという視点がほしい。甲府と宇都宮、それぞれ浜田市に生かせそうなところとか、執行部に訴えかけたい点などをいただけたらうれしい。

○川上委員長

いずれも浜田市が取り組もうとしていることに関する視察なので、参考にしてもらいたい点をまとめていきたい。

甲府について。職員を派遣してでも見ていただきたいと思ったが、どうか。

○大谷委員

資料を見るだけではなく、感じるものの意味は大きいと思うので、現地で見聞して良いものを持って帰ってもらうことは有意義だと思うので推奨して良いと思う。

○小川委員

三桜酒造跡地が約4,000平米で、亀屋座と花小路を含めてそれくらいの広さであると考えたときに、あの程度の施設の規模が限界かと思ったときに、当時言われていた3機能を一つにするというのは窮屈な感じがした。花小路の出店については、民間の力が見込めるという点があったため、今の浜田の傾向ではあそこに造ることによって後からにぎわいを期待するということもあったが、そのあたりの見通しが立てば違うのかもしれないが、甲府のような真似はできないので課題であると感じた。

○村木委員

花小路に興味があり、民設民営に踏み切ることができたのかという質問に対する回答で、プロポーザルをして地元の企業で全国展開をしている会社に貸し付けて事業展開をして、この会社の熱意や取組を評価したということであった。

3月定例会議では、市が建てて周りに民間のにぎわいをという話ではあったが、民設民営という視点。もちろん地元の企業との話し合いは必要だが、検討の一つになっても良いと思った。

○佐々木委員

亀屋座の施設は非常に工夫がなされていた。いろいろなシチュエーションが期待され、利活用が多く見込まれる。ただ、建てる時の設備投資の問題もあるので、できる範囲で参考にしていけるべき施設だと感じた。

○川上委員長

資料だけでなく現地を見聞する必要がある。三桜酒造跡地の活用にも参考にすべ

き。民間活力をいかに使うかということを重要視すべきである。そのような形で良いか。

○大谷委員

復習視察に行った。亀屋座で催しはなかったが、そこに行くまでの生涯学習センターの1階でいろいろな団体がパフォーマンスをしていた。音も200m先にも聞こえるくらい大音量であった。人口以上に周りからのキャパもあるので、それ相応のまちだと感じた。また、生涯学習センターの地下には城壁が一部保存してあった。歴史を至るところで残そうとしている結果がまちの雰囲気をつくっている。お城が残っていることそのものもそうだが、そのように感じた。お堀を復元する令和11年に完成予定の長いスパンでの計画があるがゆえに、民間もそこに入って何かをしようという見込みが立つという視点もあると感じた。なかなか市への提言は難しいかもしれないが、まちをどうしていくかということを想定し、周辺地域がどのように今後変化するかという見通しも持つ必要があり、広島などからの新しい交通網ができたときにどういう誘客が考えられるかという総合的なプランニングが必要だと思った。

○川上委員長

甲府は宿泊より日帰りが多く、それをいかに泊めるかということに工夫が必要だと言われた。浜田も広島から約2時間なので、それを取り込める計画にする必要があるだろう。一体的な催し物、一体的な地域の計画、ロングスパンでの計画でいかに取り組んでいくかということが必要だと思った。

○大谷委員

日帰りでは落ちるお金は少ないので、宿泊者が見込めるようなプランニングが一つのポイントと感じた。

○川上委員長

浜田にお城はあるが、活用が難しい。歴史を生かすために神楽もしかり、お城もしかり。

○小寺書記

大谷委員の所感に浜田城の整備計画のことも書いてあるが、今回駅周辺ということで甲府に行ったが、駅前にお城があった。浜田城をどうしていくかということはどうか。

○川上委員長

浜田城について、加えていく必要があるか。浜田市がやっているのは駅周辺だが。

○佐々木委員

浜田城の再建という議論は古くからある。城山整備ということで木を切り、遊歩道を整備した。浜田の観光客の目的地に浜田城は結構ある。しかし、歩道が整備されても見るものがない。城跡が見られるような目的があればという視点で必要性は感じるが、整備費などで実現が難しくできる範囲に収まっている。城の魅力がいかにあるかということは視察でも感じた。可否は別として改めて城の魅力は実感できたという指摘はあっても良い。

○大谷委員

甲府では、やぐらが再建されていた。図面があったから復元したということであった。浜田城がどうかという認識はないが、図面が出たときにはそれに見合った復元は想定されるだろうし、石垣も放っておいたら崩れてしまうので維持管理という面から石垣の保守も今後想定される。その折に 50m でも良いので城壁を少しずつ増すということをすれば話題性も出てくると思うので、長期的な整備の中に含めていくべきと感じる。

○川上委員長

お城については、今後も計画の中に含めてどのように使うか計画する必要があるということだった。浜田城そのものは開府 400 年を過ぎたが、まだまだ見直すべきところはある。

○大谷委員

周辺のお城、中世の山城も含めて、この地域の歴史がどう動いたかという一つの証でもあるため、整備することによってオリジナルな歴史があるということで、細々ながらも観光面に生かしていけると感じている。

○川上委員長

400 年記念をやるころに地域の山城は詳細に調査されているが、きっと表立っては出てきていない。今回の視察で、甲府城も含めて地域が大切にしている歴史、歴史の中にある日常は重要な部分であると見えたので、開府 400 年を超えた浜田でも今後の計画に浜田城を含めて、周辺の山城も含めて検討する必要がある。

○小川委員

浜田は歴史を未来にどうつなぐかということがはっきりしていないのではないかな。浜田の未来と歴史・文化の継承を市民との合意形成に組み込んでいって、未来に対する希望を持てるようなまちというようなコンセプトを打ち出していく。それに各層の市民が賛同するという形かと思ったので、もう少し練り上げる必要がある。

○川上委員長

つなぐというコンセプトが大事であった。

意見が多く出た。整理ができなくなってきた。

○小寺書記

いろいろ出たので、今日の会議録を踏まえてまとめてはどうか。

○村木委員

2 月の全員協議会で出た浜田市文化財保存活用地域計画がある。これを実現するために何をすべきかということがあると改めて思った。

○川上委員長

これについても少し加えながらやっていく。

続いて、宇都宮について、当委員会から市に対してこういうことをやるべきでないかということがあれば願います。私は今後の状況を確認する必要があるのではないかと思います。

○村木委員

発想の転換と言ったが、今後浜田市でも暫定ではあるが、水道料金は上がる。給水人口が減る影響もある。管路の腐食も考えると何らかの方策が必要とは思いますが、今回の視察で具体的に提言できることは整理できていない。

○佐々木委員

陸上養殖という目的があって行っただが、水道の源水を活用してのものだった。浜田市の美川水源地の水は非常に優良で良質なので、この水を活用するという視点を市に検討してもらうような提言をしても良いかと思った。

○大谷委員

外部からの認証は価値を高める。検討はあっても良い。浜田の資産を生かすという意味では、温泉水による養殖も一つの視点かと思った。魚は泳ぐスペースが必要だが、貝であれば狭くてもできる。検討としてはあっても良い。

○小川委員

国会議員との意見交換の中でも、小規模養殖事業に対するメニューが少ないと言われていて、大規模なものは浜田でも大手との関係がある。養殖に頼らざるを得ない部分は拡大してくるかもしれない。養殖に軸足を移しながら、小規模でも参入して事業ができるようなメニューを検討する必要があるかもしれないと感じた。

○川上委員長

浜田市の養殖事業についても、いろいろ検討されているが、再考すべき時期になっていると受け止めている方が多い。どこでやるか、何をやるか、何を使うか、事業として成り立つか。市に対しては再考していただきたいということでまとめた。

2 取組課題について（委員間で協議）

(1) 進捗状況整理

○川上委員長

当委員会では五つの取組課題を持っている。現在の状況を整理したい。

ア 道の駅ゆうひパーク浜田の問題について

○川上委員長

委員は現況をどのように捉えているか。これから新たに事業者が決まってくる段階だと思う。ここまで行き着いたのでもう少し様子を見るか、プロポーザルが今年なので、委員会として何か付け加えることがあるかなど、考えを伺いたい。

○小寺書記

委員会条例の中に、調査が終了した案件は議長へ報告書を提出しなければならないと明記している。5項目ある中で区切りが付いているものは何かしらの形で議長への報告を考えていく必要があると思ったため、進捗状況の整理について議題をお願いした。その辺も含めて協議をお願いしたい。

○川上委員長

道の駅ゆうひパーク浜田については、かなり調整しながら進んでいる。現況を報告するだけで済むかと思う。今後の経過を観察するというこも加えることで報告ができると思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

○小寺書記

道の駅については視察に2件行っている。そのこも踏まえて議長に報告する形でよろしいか。

○川上委員長

そのような形にする。

イ 地域小売店の問題について

○川上委員長

これはなかなか取組が進んでいない気がする。あと半年の中でもう少し目を向けたいと思う。現時点では報告ができないと思うがどうか。もう少し取り組んでいきたいとか、現時点ではできなかったとか、半年の間で再度調査をするとか。

今回は取り上げないこととする。

ウ ゼロゼロ融資の問題について

○川上委員長

これは市としての取組があると思うが、当委員会においては踏み込んだ取組はしていないのが実情だと思う。現時点では報告できる段階ではない。

エ 小規模農家への支援について

○村木委員

牛尾委員とペアで進めている。まずは1月に担当部署と意見交換をした。牛尾委員が旭と浜田、私が三隅と弥栄、相互で金城という話をしている。ヒアリングをする中で機械代の補助の話は出てきた。市としても小規模農家ではないが、兼業農家を支援したいということで今回の当初予算にも補助制度が出た。委員会代表質問をしたかったが、牛尾委員が個人一般質問でされた。

成果としては補助制度ができたこと。ただ、今後どのように市民に使ってもらえるか、どのような工夫が必要か、約2反持っている人が農地を増やすというときの兼業農家への支援がほかにはないか、鳥獣被害や水利組合の問題にも波及している。そのようなところを牛尾委員と共有している。

○川上委員長

取組の中で生かされているものもあるということ。同時に今後も継続的に見なければならぬ。成果としては出ているので、これについて報告し、今後も継続的に様子を見るという形になろうか。

○佐々木委員

小規模農家への補助制度は市民からの反響がある。何人かの人がとても喜ばれていた。非常に良い成果だと思っている。その辺も入れ込んでほしい。

○川上委員長

今般の国会議員との意見交換でも実情を話すことができたのは大きな成果だと思う。

○村木委員

今の話をワンペーパーでまとめて報告できるようにする。

オ 建設業の問題点と課題について

○川上委員長

これについては、委員会代表質問を行った。成果が出ていると思うので、調査をして、委員会代表質問をして、補正予算等に出てきて、建設業に対する思いはある程度カバーできたのではないかとということで報告する。

3 その他

○川上委員長

田畑副委員長に地域井戸端会での当委員会の状況報告の資料を用意してもらった。それをタブレットに入れておくので、違うところがあれば指摘してほしい。委員会として取り組んできたことはこのようなことであると報告してほしい。

暫時休憩する。

[11 時 12 分 休憩]

[11 時 21 分 再開]

○川上委員長

再開する。

資料は練り直した形で再度お示ししたいが、よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

そのように進める。その他あるか。

○大谷委員

朝日町からの橋が通行止めとなっている。その後の情報をいただいていないように思う。市民にとって不便な状況となっている事柄のその後については、随時委員会に流してほしいと思う。我々も市民に説明できてありがたいと思うがどうか。

○川上委員長

私から担当課へ申し入れて、随時状況報告をしてもらおうと思う。

○小寺書記

3 月 25 日にLINE WORKSの掲示板でお知らせしている内容がある。それを踏まえてのその後ということか。

○川上委員長

そういうことだと思う。それを踏まえて提示してもらおうという形にしたい。その他ないか。

○小寺書記

次回委員会日程について、5月22日の午前9時からである。10時から全員協議会が控えているので、1時間もないくらいだが、行政視察レポートの確認もやりたいと思っているがよろしいか。

○川上委員長

村木委員よろしいか。

5月22日9時からである。10時から全員協議会である。

その他、委員会で協議するようなことがあれば、申し出てほしい。そのような方向で良いか。

(「はい」という声あり)

それでは、そのように進める。

○小寺書記

取組課題のことも改めて確認をする場面を設けたい。行政視察レポートの確認は5月22日に行い、全員協議会での報告については6月9日ということでよろしいか。

○川上委員長

早くないので大丈夫だと思う。

それでは、以上で産業建設委員会を終了する。

[11 時 26 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員会委員長 川 上 幾 雄